

## 令和3年度学校教育自己診断結果に対する分析

### ○寄り添う生徒支援の更なる充実

今年度は、昨年度に比べると、生徒の肯定的な回答が減少しているが、一昨年度より高い水準を維持している。「自分の周りでいじめやいじめに近いことを見聞きしたことがある」では、年々肯定的な回答の割合が減少しており、生徒の安心安全が確保されつつあると考える。遅刻指導や頭髪指導に対する肯定的な評価とあわせて、学校におけるきまりが自分のためになっていると考えている生徒の割合も、一昨年度よりは増加しているが、昨年度の水準には達していない。より一層学校に対する満足度の向上に向けたきめ細やかな支援を行っていく必要がある。

### ○授業改善の取組みの深化

教室の黒板をホワイトボードに変えたことにより、ICT 機器の活用がさらに加速した。「わかる」授業づくりの工夫や、生徒が主体的に参加する取組みの増加により、授業に対する評価は高水準を保っている。

### ○教職員の学校運営への参画

教職員の意見が学校運営に反映されている項目の評価は昨年と比較して、高くなったが依然 45.8%と低い状況である。「ともに学びともに育つ」多様な教育実践モデル校として、主体的に学校運営に参画できる教員の育成に努めたい。